

韓国で深めた国際交流の絆!

—平成5年度ジュニアリーダー研修「海のつどい」—

県教育委員会では、昨年まで北海道で行っていた「海のつどい」を、ことしは航路を韓国へ向け、8月20日から27日までの8日間で行いました。洋上での船内研修、韓国各地を訪問する中での国際理解・交流を深めようといわれているこの研修に、当村からも清水孝子さん、藤田祐二さんの2名が参加しました。



ことしの農業祭も 自然が新鮮!!

第十三回岩室村農業祭「自然が新鮮!!」おもしろいフェスティバルが先月十四日村民体育館で開催され、会場は大勢の人たちで賑わいました。当日は、午前十時のテープカットで「ふれあい野菜市」や「卵・わたあめ・とん汁などの販売コーナー」がオープン。村内産の新鮮野菜が飛ぶように売れました。正午からは、お楽しみ「抽選会」。家具調こたつなど豪華賞品が当たるとあって、当選番号の発表に会場内は一喜一憂しました。また二十一世紀に想いを馳せて、子供たちが「タイムカプセル」を埋めました。その他にも、「コシヒカリおにぎりやあま酒、牛乳の無料サービス」や「キャンディーのつかみ取り」「もちつき大会」なども行われ、会場に集まった人たちは楽しい秋の日を過ごしました。

【うまい米作り生産推進競争会総合結果】
今回の表彰は、九月二十一日に実施した坪刈りの成績(収量)に、総出荷量の一等米比率、銘柄米出荷率、それに限度数量の達成率を合計して、その総合成績を競い合いました。

(団体の部) ●栄Aチーム ●和納三区チーム ●西中Aチーム (個人の部) ●草野剛さん ●青柳佐さん ●本間征男さん

私の一生の思い出

第一日目が家族との別れ。まわりは知らない人ばかり。不安な気持ちでいっぱい、船が港を出た時は涙がでていました。でも、すぐさまわりの人たちと仲良くなり、一緒に遊んだり写真を撮ったりして楽しく過ごしました。

韓国では慶州や釜山、ソウルなどを見学し、日本と韓国のつながりや韓国の生活などを学びました。韓国で最初に気づいたことは、道路がとても広いということです。そして脇には街路樹がずっと並んでおり、それは田舎でも主要道路には必ずあって、本当に整った国だという印象をもちました。韓国の子供たちとの交流会では、お互いに英語で話しました。英語が通じた時はすごく感動し、勉強していた本当によかったと思えました。

船に戻ってのさよならパーティーでは、みんなもう涙・涙。みんなとの別れはとも辛かったけど、そんな大切な仲間を持てたことがうれしかったです。

この楽しかった八日間で私が学んだのは家族の大切さ、友達・仲間の大切さ、そして団体行動をするうえで大切なことです。私は船の中でカメラをなくしてしまった



清水孝子さん (岩室中学校・3年)

ちが当然そのことは知っています。私たちが日本人を暖かく迎えてくれた学校で習った「まどさんの歌」を思い出して、この人たちは本当に民族を超えているのだなあと感じました。私は心の中で韓国は日本よりも劣っている、と考えていた時がありました。本心に恥ずかしいことだと思えます。こんな偏見をなくさなければいけないと感じました。この八日間で体験したことを、普段の生活に生かせるよう努力していきたいと思えます。そして、もっともっと国際性を高めていきたいと思えます。この研修は、私の一生の思い出です。

第2回 ジャンボなわとび大会

20人1組でチームをつくり、1分間に何回跳べるかを競うこの大会。今年は15チームが第2代のチャンピオンの座を競い合いました。優勝…橋本チーム 準優勝…湯上チーム 3位…西中Bチーム 敢闘賞…和納6区チーム

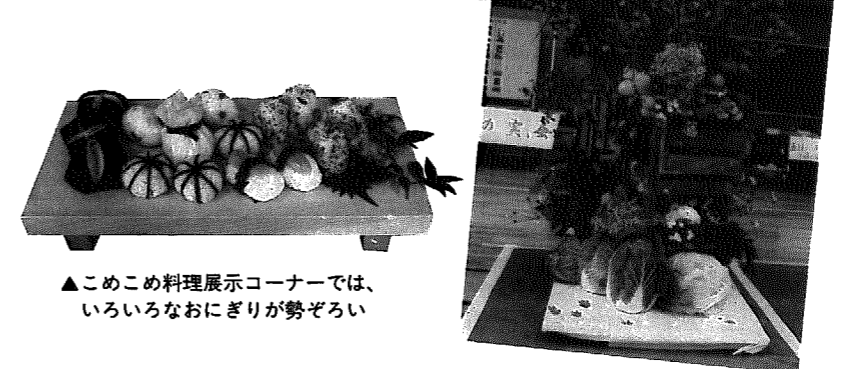


▲見事第2代のチャンピオンの座を射止めた橋本チーム!



◀写真左:「私、タイムカプセルの中に入れてみようかな?」

▼写真下: 見よこの芸術品!



▲こめこめ料理展示コーナーでは、いろいろなおにぎりが勢ぞろい

たくさんできた新しい仲間

ぼくは、八月二十日から二十七日まで「海のつどい」に参加して韓国へ行ってきました。

出発のとき、県知事さんから激励の言葉をかけていただき、県警の音楽隊から激励の演奏をしていただきました。家の人に見送られながら、小学六年生から中学生、高校生まで合わせて三百九十九人を乗せた「ゆうとびあ号」は、韓国に向けて出発しました。

着くまでの間、船の中で「韓国を学ぼう」「夕べのつどい」交流会についてなどを、映画を見たり、先生の話しを聞いたたりしながら勉強しました。二十二日の朝、船は韓国の釜山港に着きました。

韓国では、慶州の古墳公園、慶州博物館、仏国寺やソウルのオリピックスタジアム、南大門、国会議事堂、韓国民俗村などを見学しました。そして二十四日には、待ちに待った韓国の子どもたちとの交流会です。ソウルリンリン国民学校の六年生が四十人くらいきて、一緒にドッチボールをしました。韓国の人たちは強いと思っていたけど、すっごく弱かったです。それから、船で練習した韓国の歌を歌ったり、名刺の交換なども



藤田祐二くん (岩室小学校・6年)

ると、家の人が迎えにきていました。たった一週間しかはなれていなかったのに、何だかずいぶんなつかしい感じがしました。

新潟県中の人たちと友達になれたし、韓国人の友達もできました。勇気を出してこの「海のつどい」に参加して、本当に良かったと思えました。

今回参加した二人が、帰国後に書いた感想文を、一部抜粋して掲載させていただきます。